

有水中学校校長室より

令和4年10月25日(火)
文責 木宮 崇子

秋も深まり・・・

学習発表会に際して、多くの参観ありがとうございました。発表に向けて取組んできた内容を丁寧に発表できたとてもいい学習発表となりました。発表会当日まで試行錯誤し学年が協力して学習している様子、開会式前や発表直前にタブレットを見つめて発表内容を確認する様子、準備や後片付けの様子等落ち着いた取組の姿が随所に見られ、当日だけでなくそれまでの過程も充実していたようです。

日に日に肌寒さも増し、秋の深まりを感じるこの頃、日中は日差しが強く寒暖の差があり体調を心配するのですが、生徒は皆たくましく学校生活を送っています。保護者の皆様もどうぞご自愛ください。

食に関する話

『食べ物』のテーマでの返信を紹介させていただきます。

- 私の得意料理といえるものはありませんが、男の子2人食べ盛りなので美味しい物をと毎日色々考えるのが大変です。その中でも、お父さんの作る唐揚げは大好評です。お父さんの作る唐揚げの漬けダレが美味しいそうで、ご飯もおかわりが進みます。そんな子どもの顔を見ていると、毎日悩んで料理を作っていることも自信に変わり、嬉しくさえ思えてきます。毎日美味しく食べて貰ってありがとうございます。
 - 年2回、味噌を手作りしています。野菜は自家菜園で作り、無農薬のものをできるだけ食べるようになります。食に少しこだわるだけで家族全員病気にかかることがなくなりました。そのような経験から、食の大切さと『食が人間を作る』ことを深く実感しています。そのような食生活ができるのは有水のような地方に住んでいることであり、そういう恵まれた場所に住めることに感謝しています。

心の入れ物は体。体は食でできている。食べことは生きること命そのものですね。テレビを見ていたらある料理番組で女優沢村貞子が言った言葉が紹介されていました。「私ね、生活の基は、なんといったって食べ物だと思います。」保護者の方から頂いた返信もこの言葉に通じるものがあると感じました。こころが温かくなる返信ありがとうございました。

食の好みは変化するとはいっても、その地方ならではの食文化や味覚は私たちのDNAに深く刻み込まれていると感じます。将来この地を巣立っても、家庭の味やこの地域の食文化を思い出し懐かしくなることでしょう。そして何より、自立するためには自分の食事を自分で何とかする力も必要となってきます。10月27日のお弁当の日を、食への関心を高めるきっかけとして各家庭で取り組んでみてください。

次回の通信は【家庭での学習の様子】についてお話を聞けたらと思います。

夏休みの課題は宅習を課すことなく『AIドリルキュビナ』を課題としていましたが、10月より家庭学習のメインにキュビナを取り入れました。生徒からは「宅習の方が自分には合っています。」「宅習のノルマがないので自分でやりたい問題集に取組む時間が増えた。」という意見がありました。また、キュビナに取り組むことをメインにしたら、びっくりするほど取組の時間が増えた生徒もいます。自分に合った学習方法を見つけてほしいと思います。家庭での学習の様子や、タブレット学習の感想など聞かせていただければ参考になります。

きりとり

年 生徒名

保護者名